第３１１回　令和８年１０月１９日（月）

「ともに生きる」

私は管理職のキャリアの中で、津久井高校に２年、愛川高校に２年赴任しました。どちらも緑豊かな学校で、窓から見える緑の木々に心癒されました。

津久井高校では農作物を育てたり、地域の方と交流したり様々な思い出がありました。７月に津久井やまゆり園を訪れました。事件から数年が経ち、犠牲者をしのぶモニュメントができた年に、ご冥福をお祈りしたいと思い手を合わせに行きました。

ご遺族でしょうか、涙を流されて献花されている方もいました。生きていてもしょうがないという理由で命を奪われた大変痛ましい事件です。忘れてはいけないと思います。

すべての人間は異なった価値観の中で生きています。自分と同じ尺度でしか他人を見ることができない人はものすごく心が貧しいと思います。幸せだと思う気持ちは人それぞれあります。成功してお金持ちになっても幸せとは限りません。

自分の価値観だけで他人を不幸だと思い込む傲慢さは言葉で表現できないほどの悲しさを感じます。他者を論破するＳＮＳの風潮にも似たものを感じます。エコーチェンバーで賛成意見しか集まってこない機能がそれに拍車をかけてしまいます。

愛川町は神奈川県でも有数の外国人コミュニティーの多い土地柄です。小学校では多くのボランティアが日本語をサポートしながら授業を教えていました。

来日して数日の小学校１年生の男の子が授業を受けていました。父親が教室までつきそっていましたが、泣いている時間が長く授業に参加するまで時間がかかりそうです。

自分があの子の立場なら、やっぱり不安でしょうがないだろうと思います。耳に入ってくる言葉は理解できないものばかりです。私たちも英語圏ならまだしも、それ以外になると話せる人も限られてしまいます。

「ともに生きる」ために何が必要なのでしょうか。スタートからゴールまで歩く人もいれば車いすの人もいます。松葉杖の人もいます。歩けない人が自転車をこいでいると不公平感を感じる人もいるかもしれません。でもそれは個人の感じ方、個人の価値観です。

みんながゴールできるために何が必要なのか。みんな違って良いのです。すべての人が人生をスタートしてゴールインできること、これが一番大事なことです。